

神樹の窓



清明小学校だより
令和7年8月21日

第6号
tetoru配信

□文責：土屋智則

夏休みの思い出

年々、暑さを増していく日本の夏。今年も、まだまだ暑い日が続きそうです。1ヶ月弱の夏休みも、あっという間に終わってしまいました。予定では、『神樹の窓』第6号は、9月末の発行予定でしたが、イレギュラーの発信をさせていただきます。

『学びの音』（学校長が発行している校長だより）でお知らせした通り、この夏休み中に中庭の樹木の伐採が行われました。

メタセコイア：昇降口前の1本・中庭（重なって1本に見える）の2本、理科室前のユリの木1本の計4本。右の写真では、手前の校舎より高く飛び出している木です。

枝は横へ大きく張りだし、樹高も大きく学校のシンボルとも言えそうな大木。しかし、枯れた枝があったり、台風等の風であおられたりと、安全面で心配もありました。学校関係者の方や近隣の方からの声の後押しもあり、市で伐採について予算化され、伐採することになりました。

校舎のすぐ横に立つ大木。重機も入れない場所であることから、特殊伐採という作業になります。小山林産(武石)から、空師(そらし)と呼ばれる方々が作業にきてくださいました。

様々な道具を腰に巻き、チェーンソーを下げ、足には木登り用の昇柱器(クイック・スパ)という道具をつけて、スパイダーマンの様にスルスルと木を登っていきます。ロープとチェーンソーを使って、下から順に、枝を落としていきます。切った枝が校舎や屋根に当たらないように、切ったあとの回転方向も見極めながら落としていく様子は、匠の技です。

枝が全て落ちると、今度は幹。上から順に2～3mくらいずつに切り分けて、こちらも、周りにぶつからないよう、木自身を支えにしながら切り落としていきます。言葉では、伝えきれない作業の様子。ずっと見上げて居られる、凄い作業でした。小山林産さんのX(エックス)にも伐採の様子が投稿されていますので、ご覧ください。また、本校のHPでも、今後アップロードしていく予定です。

さて、そんな伐採作業ですが、当然のことながら枝や幹が大量に廃棄として出てきます。「処分は学校で」を条件に予算化していただいたので、どうしたものかと頭を悩ませていたところ「うちで処分は担当するよ。」と天の声。相当な量の枝や幹でしたが、工事期間中にあっという間に片づけていただきました。さらに、有り難いことに、中庭の草捨て場や枯れ枝を置いてあった所のものまで、一緒に片づけてくださったのです。小山さんには、3階の屋根の落葉(雨樋の中)まで掃除していただきました。



撮影：アルビコ・コーンアカデミー



「今まで、他人ごとだった学校のこと。先生方はもちろん、色々な人が子どもたちのために、学校のために動いてくださっていることを、役員になってはじめて分かりました。もっと、早く関わっていただければ良かったです。」(現PTA環境厚生部長：吉村さん 談)

PTA作業の準備も、時間を割いて校内を回り、担当職員と打合せをしてくださいました。

アルピコさん撮影のドローン写真。アルピコさんは、11/8の総合防災訓練で協力してくださる方です。「せっかく、今回清明小とつながりができたので、ドローンで校舎を撮影し、動画にします。」と申し出てくださり、「それなら、木が伐採される前の様子を是非残したい。」とわがままなお願いしたところ、ご自身の仕事を早めに切り上げて来校くださり、撮影してくださいました。こちら、後日HPにアップしていきます。



人とつながること

つながることで、動き出すこと

その動きを楽しむこと

つながることを楽しむこと

みんなが元気になれる拠点としての学校になること

地域みんなの母校であること

みんなの母校になること

8・9月の予定は、前号にてお知らせ済みです。次号は、9月末発行予定です。